

事業名称	衣と食ーハレの日とケの日
団体名・代表者	香寺歴史研究会 代表 竹尾 元一
協働の相手方	企画政策室
目的	失われようとしている昭和 30 年代の地域の記憶を調査し記録に残すことを目的に実施。今年度は、昭和 30 年代の衣と食の調査及びその後の変化について調査し記録に残す。
内容	昭和 30 年代の衣と食について、それぞれハレの日（非日常）とケの日（日常）の状況を聞き取る方法で調査を実施した。会員が聞き取りを行った。調査期間は3カ月。調査終了後、調査票の集計等を行い、提案型協働事業報告会を開催すると共に『昭和 30 年代 香寺町の衣と食と暮らし』として発行、関係先に配布。
事業経過	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7 月中 調査内容の決定 ・ 8 月 4 日 調査説明会の実施 ・ 8 月～10 月 地区会員等による聞き取り調査 ・ 11 月～2 月 調査票の集計分析及び冊子の編集会議 ・ 2 月 9 日 令和 4 年度提案型協働事業報告会を開催 ・ 3 月 30 日 『香寺町の衣と食と暮らし』発行
事業の効果	令和 4 年度の事業をもって、過去 3 年間にわたる香寺町における昭和 30 年代の記憶を記録する作業が終了した。成果物として、『香寺ふるさとマップ集』、『香寺町の住まいと暮らし』、『香寺町の衣と食と暮らし』の三冊を得、会員をはじめ協力者等、近隣各学校、図書館等関係先に配布することができた。学校における地域調べなど様々な場面で活用して欲しいと願っている。
今後の展望	昭和 30 年代の香寺町各集落の状況、衣食住について記録したが、今後は、いつのどのような事項について調査を実施するかは決まっていない。令和 3 年度の提案型協働事業報告会の際、神戸大学大学院地域連携センターの先生から新型コロナに関する資料集めや記録についてアドバイスを受けたが、そういった現在の出来事についても今後検討する必要があると考えている。

【実施団体の事業総括・感想等】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査できた集落数は 12 集落で昨年度より減少したが、協力者は増加している。 ・ 女性への聞き取りが増加したことは良かった。 ・ 調査項目が多くなったことは反省点である。 ・ 3 年連続の調査で調査疲れによる今後の事業への影響が心配である。 ・ 今回の調査のまとめは、『昭和 30 年代 香寺町の衣と食と暮らし』として発行。 <p>過去 2 年間の調査結果と共に、学校における地域調べなどに活用されることを望む。</p>
--

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

<p>地域全体に調査をかけ、多くの集落から回答を得られたことで、地域のくらしを幅広く記録できていると感じた。当時の様子を知らない世代の方が見ても情景を思い浮かべやすい。今回のテーマである衣と食は、今も食べられているものや着ているものが登場し、親しみを持ってもらいやすいと感じた。また、昔ながらの、家族や日々のくらしを大切にしている様子が実感できた。小学生や中学生などの若い世代の方にも手に取ってもらい、住んでいる地域の昔の様子を学ぶことで、さらに地域に対する愛着を持ってもらいたい。</p>
